

新年おめでとうござ
います。今年の町史だ
よりは、琉歌で幕開け
です。

新玉あらたまの年や誰も喜びの

目眉みまゆ打ち開き遊ぶうれしや

恩河朝祐

(新年は誰も彼も皆喜びの目を
輝かし、眉を開いて心ははればれ
と遊ぶのがうれしい。)

正月は、老若男女皆で喜ん
だという歌です。皆さんも
きつと良いお正月を迎えた
ことと思います。

いつも新玉のごとあらな
うれしごとばかり

言ちやり聞きやり

上江洲由惣

(いつも新年のようにありたい
ものだ。うれしいことばかり言
ったり聞いたりして。)

新年は縁起をかついで、不
吉なことや嫌なことはさて
おいて、皆良いことばかり
言ったり聞いたりする。そ

れて年中そついうことにす
れば、この世はどんなに楽
しいものとなるか知れない
という歌です。

世の中、暗い話題が多く
ありますが、こういう琉歌
を聞くと良いことがたくさ
んありそうな気がしません
か。「病は気から」ともい
いますが、うれしいこと、
楽しいことを見つける努力
も必要ではないでしょうか。
気を持ちようで何か変わる
かも知れません。今年は良
いことがたくさんあります
ように願っています。

ところで、皆さんは、元
旦に今年の目標をたてたで
しょうか。

町史編集事務局では、平
成十三年三月に発刊予定の
「産業編」を町民のみなさ
んにお届けできるように努
力していきたいと思えます。

ときはなる松の
変わることないさめ

いつも春くれば色どまさる

北谷王子

(常葉とこばの松は、幾久しく変わる
ことがないもの。いつも春が来
れば濃い緑の色がまさるばかり
だ。)

大変縁起のよい歌です。
この歌のように年があけて、
春を迎えることに西原の歴
史も色濃く重なっていくこ
とでしょう。そんな西原の
様子をこれからも記録し続
けていくのが、町史の仕事
でもあるのです。そういえ
ば、琉歌に興味をお持ちの
方は、三月には「琉歌碑
めぐり」を企画していま
すので、お楽しみに。

